

# 聖隷浜松病院麻酔科専門研修プログラム

## 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

### ① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

### ② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

## 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

基幹施設である聖隷浜松病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。聖隷浜松病院においては小児も含めた一般の外科系の麻酔から、周産期麻酔、新生児麻酔、心臓血管外科麻酔（小児、成人）まで、多種多様な症例の経験が可能である。特殊麻酔の必要件数は当院のみの症例数でも満たされる。また、緩和医療、集中治療、救急領域においても当院で研修可能である。連携施設での研修によりさらに知識や経験を深めて、幅広く研修を行う。

人材育成センターのサポートも充実し、常により良い教育体制を構築していくことを目指しており、それぞれの事情や希望に対応しながら到達目標を達成できる。

学会発表の機会は国内だけでなく、海外での発表にむけて英語論文の理解力を深めるための医学英語トレーニングの機会も設けている。

チームでの麻酔管理をめざし、仲間の麻酔管理を観察しながら固定観念にとらわれないフレキシビリティ溢れた臨床能力を磨き続け、長く活躍できる麻酔専門医を育成することが目標である。

### 3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修機関中の最低2年間は、専門研修基幹施設で研修を行う。
- 希望に応じて他2年間は当院あるいは連携施設を選択し、ペインクリニックや集中治療を含む様々な症例も経験する。
- 地域医療の維持のため聖隷三方原病院、または静岡県立こども病院にて研修を行うことができる。
- 小児・新生児麻酔の更なる知識を深めるため静岡県立こども病院、または四国こどもとおとなの医療センターにて研修を行うことができる。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

#### 研修実施計画例

##### 年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	聖隷三方原病院 (ペイン、緩和も含む)	静岡県立こども病院、聖隷浜松病院 (集中治療など)
B	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	静岡県立こども病院あるいは四国こどもとおとなの医療センター	東京女子医科大学 あるいは徳島大学 小倉記念病院 (ペイン、集中治療) 愛知医科大学

#### 週間予定表

##### 聖隷浜松病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直、拘束			拘束				

#### 4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：6922症例

本研修プログラム全体における総指導医数：8人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	746症例
帝王切開術の麻酔	623症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	256症例
胸部外科手術の麻酔	201 症例
脳神経外科手術の麻酔	154症例

##### ① 専門研修基幹施設

###### 聖隷浜松病院

研修プログラム統括責任者：鳥羽好恵

専門研修指導医：鳥羽好恵（麻酔）

小久保壮太郎（麻酔）

小倉富美子（麻酔）

鈴木清由（麻酔）

奥井悠介（麻酔）

池上宏美（麻酔）

近藤聡子（麻酔）

大谷十茂太（麻酔）

他の科の指導医：田中茂（救急）

渥美生弘（集中治療）

山田博英（緩和、ペイン）

認定病院番号：233

特徴：新生児から成人の各分野において豊富な手術麻酔を経験可能。救急集中治療、緩和医療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 6961 症例(本プログラム6372例)

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	641症例
帝王切開術の麻酔	622症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	197 症例

胸部外科手術の麻酔	131 症例
脳神経外科手術の麻酔	143症例

## ② 専門研修連携施設A

### 聖隷三方原病院

専門研修指導医：高田 知季（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）  
 金丸 哲也（麻酔、ペインクリニック）  
 赤池 達正（麻酔）  
 加藤 茂（麻酔、ペインクリニック）  
 三村 真一郎（麻酔、ペインクリニック）  
 藤本 久美子（麻酔、ペインクリニック）  
 杉浦 弥栄子（麻酔、ペインクリニック）  
 専門医：小林 充（麻酔、ペインクリニック）  
 佐藤 徳子（麻酔）

認定病院番号;378

特徴：浜松市北西部の中核となる地域医療支援病院。手術麻酔のみならず、ペインクリニックの研修可能。

麻酔科管理症例数 3241 症例(本プログラム100例)

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5症例
帝王切開術の麻酔	1症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	34 症例
胸部外科手術の麻酔	45 症例
脳神経外科手術の麻酔	11症例

### 東京女子医科大学

研修プログラム統括責任者： 野村 実 （麻酔）

専門研修指導医：野村 実 （麻酔）

尾崎 眞 （麻酔、集中治療）

樋口 秀行（麻酔、ペインクリニック）

尾崎 恭子（麻酔）

黒川 智 （麻酔）

深田 智子（麻酔）

岩出 宗代（麻酔、ペインクリニック）

高木 俊一（麻酔、ペインクリニック）

近藤 泉 （麻酔）

横川 すみれ (麻醉)  
濱田 啓子 (麻醉)  
庄司 詩保子 (麻醉)  
清野 雄介 (麻醉、集中治療)  
虻川 有香子 (麻醉)  
岩田 志保子 (麻醉)  
山縣 克之 (麻醉、ペインクリニック)  
畔柳 綾 (麻醉、ペインクリニック)  
鎌田 ことえ (麻醉)  
佐藤 暢夫 (麻醉、集中治療)  
糟谷 祐輔 (麻醉)  
佐久間 潮里 (麻醉)  
土井 健司 (麻醉)  
中澤 圭介 (麻醉)  
野村 岳志 (集中治療)  
石川 淳哉 (集中治療)

専門医：伊藤 祥子 (麻醉)  
権田 希望 (麻醉)  
金森 理絵 (麻醉)  
佐藤 麻衣子 (麻醉)  
古井 郁恵 (麻醉)  
永井 美玲 (麻醉)  
丸山 恵梨香 (麻醉)  
福島 里沙 (麻醉)  
大澤 由佳 (麻醉)  
神谷 雅 (麻醉)  
梁木 理史 (麻醉)  
山本 英一郎 (麻醉)  
一丸 達郎 (麻醉)  
加藤 孝子 (麻醉)  
駒山 徳明 (麻醉)  
中島 慶子 (麻醉)  
福井 公哉 (麻醉、集中治療)

認定病院番号 32

特徴：豊富な症例数を背景とした包括的な麻醉研修、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も可

麻酔科管理症例数 6874症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

### 徳島大学病院

研修実施責任者：田中克哉

専門研修指導医：田中克哉

堤保夫

富山芳信

酒井陽子

曾我朋宏

角田奈美

櫻井静佳

認定病院番号;10

特徴：豊富な症例数を背景とした包括的な麻酔研修、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も可

麻酔科管理症例数 4356症例（本プログラム分25例）

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	25 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

### ③ 専門研修連携施設B

#### 静岡県立こども病院

研修実施責任者：奥山克巳

専門研修指導医：奥山克巳

梶田博史

認定病院番号;183

特徴：地域における小児医療の中心施設。

術前から患児の不安を取り除く配慮や、術後鎮痛への十分な配慮を経験できる。新生児手術、心臓血管外科手術も多数経験可能。

麻酔科管理症例数 2835症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

#### 四国こどもとおとなの医療センター

研修実施責任者：多田文彦

専門研修指導医：多田文彦（麻酔、緩和医療）

甲藤貴子（麻酔）

山田暁大（麻酔）

麻酔科認定病院番号：16369

特徴：四国こどもとおとなの医療センターは香川小児病院と善通寺病院が合併統合した病院で、小児専門施設としての小児（小児心臓血管外科、小児脳神経外科、小児胸部外科手術、新生児や未熟児に対する手術なども研修可能）・産科症例（母体重症症例、重症胎児症例、胎児手術、無痛分娩なども研修可能）と成人症例と幅広い症例が経験できる特徴を持つ病院である。

#### 週間スケジュール

月曜日～金曜日（7：30～8：00） 術後回診

月曜日～金曜日（8：00～8：30） 術前術後カンファレンス

月曜日～金曜日（8：30～15：15） 手術室での麻酔および術前診察

月曜日 14：00～16：00 呼吸器ケアラウンド

火曜日 17：15～水曜日 8：30 当直

水曜日 8：30～9：00 抄読会

木曜日 14：00～16：00 緩和ケアラウンド

麻酔科管理症例数2572症例（本プログラム分200例）

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

### 小倉記念病院（以下、小倉記念）

プログラム責任者：瀬尾勝弘

指導医：瀬尾勝弘（専門医更新回数 5）

中島 研（専門医更新回数 5）

宮脇 宏（専門医更新回数 5）

角本眞一（専門医更新回数 5）

近藤 香（専門医更新回数 3）

松田憲昌（専門医更新回数 2）

栗林淳也（専門医更新回数 2）

専門医：溝部圭輔、鴛渕るみ、松本 恵、馬場麻理子、平野芳枝

麻酔科認定病院番号：52

特徴：

小倉記念病院は、成人患者のみに対応していますが、心臓手術症例、脳神経外科手術症例に特徴があります。循環器合併非心臓手術の麻酔症例も多く経験できます。集中治療にも力を入れています。

麻酔科管理症例 2702症例（本プログラム分25例）

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	455 症例	25 症例
胸部外科手術の麻酔	120 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	177症例	0 症例

## 愛知医科大学病院

研修プログラム統括責任者：藤原 祥裕

専門研修指導医：

藤原 祥裕（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

小松 徹（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

畠山 登（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

藤田 義人（麻酔、集中治療、救急医療）

山田 満（麻酔）

神立 延久（麻酔、集中治療）

佐藤 祐子（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

橋本 篤（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

鉄 慎一郎（麻酔、救急医療）

専門医：

青山 寛子（麻酔）

高柳 博子（麻酔、集中治療）

田中 久美子（麻酔）

榊原 健介（麻酔、集中治療）

遠藤 章子（麻酔）

丹羽 英美（麻酔）

日本麻酔科学会認定病院取得（認定病院番号 99）

日本ペインクリニック学会指定研修施設

日本集中治療医学会専門研修施設

特徴：

1. 周術期麻酔科センターではすべての麻酔科術前患者の診察を行います。術前・術中・術後まで一貫した周術期管理の研修ができます。
2. 先端医療も含めた各外科領域の手術麻酔を満遍なく経験することができます。
3. 周術期集中治療室を管理しています。術後患者の管理だけでなく、院内発症重症患者の受け入れも行っており、集中治療領域の研修を行うことができます。
4. ペインクリニック外来ではペインクリニックに必要な知識と経験を研鑽することができます。
5. 超音波ガイド下末梢神経ブロックに関しては全国に先駆けて普及・教育を行ってきた経験を生かし、習熟度に合わせた教育・指導を受けることができます。

6. 大学病院における臨床および基礎研究の研究活動経験を通して、研究・学術活動に必要な技能の修得が可能です。

麻酔科管理症例数 6116症例（本プログラム分 100例）

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

## 5. 募集定員

2名

## 6. 専攻医の採用と問い合わせ先

### ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2017年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

### ② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、聖隷浜松病院専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

プログラム責任者 問い合わせ先

聖隷浜松病院 麻酔科

鳥羽好恵 部長

静岡県浜松市中区住吉2-1 2-1 2

TEL 053-474-2222

e-mail ; [hm-kenshu@sis.seirei.or.jp](mailto:hm-kenshu@sis.seirei.or.jp) または yosh-my@hotmail.co.jp

## 7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

## ② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

## ③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

## 8. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

## 9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

### 専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

### 専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

#### 専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

#### 専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

### 10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

#### ① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

#### ② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

### 11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

## 12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## 13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

### ② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

### ③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専

門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

#### 14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、静岡県地域医療の中核病院として、聖隷三方原病院、静岡県立こども病院が入っている。また当院と長年連携している徳島大学とも連携し、四国こどもとおとなの医療センターなど四国地方の地域医療にも貢献できるように配慮ができる。

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。